



# 三原市老人大学 ふれあい

第98号  
発行・編集  
三原市老人大学  
ふれあい新聞  
編集委員会  
電話 64-6868

## 駅前移転に寄せて

学長 植木章宏

三原市老人大学は次年度の夏、駅前サンシープラザ三階に移転いたします。既に生涯学習課のご尽力で教室配置については最大限の配慮がされております。ただ、年度途中の移転ということで、講師の先生方、学生のみなさんにはご不便をおかけすることがあるかもしれません。改修を伴う大事業ということ、どうか御理解ください。

老人は創立以来一貫して、高齢者の生涯学習の充実につとめ、全国に誇れる大きな成果を上げてきました。

このことは先人のご苦労の賜物であります。半世紀近くにおわたって築かれた伝統の力は素晴らしいものです。

三原市在住の六十歳以上の市民の四十人に一人が老人に在籍されております。

正に市民の財産です。今、老人は第三世代の時代に入ろうとしています。

祖父母が学び、父母が学び、そして今、自分が学び輝いている時代です。

この世代を繋ぐ老人を新たな令和の時代においても繋いでゆ

きたいものです。そのために、今度の移転を機により魅力ある老人にしたいと思っております。

既に校内応募が始まっています。学生のみなさん、次年度も老人で学び輝いてください。

御案内のように既存の教科に合わせ、県立大のご協力もあつて多くの新設講座の開設を予定しています。

老人が新しい時代にふさわしい「学びの場」となり、さらに三原市民に喜ばれ、三原市に貢献できる老人でありたいと願っています。そのためには、今度の移転という大事業に臨む時、みなさんお一人お一人の力がどうしても必要であります。

駅前には輝く「新たな老人」にどうかみなさんのお力を結集させてください。

## 老人大学の大移転について

パソコン院⑭ 大原富子

私が老人に通うようになったきっかけは、長患いの末に天国にいつてしまった夫との別れに寂しく暮らしていたら、主人の妹が「お姉さん老人で大正琴習ってみたら、気持ちも和むんじゃないの。」と、言ってもらったことからです。長いもので十五

年目になります。軽い気持ちで大正琴コースに入学し、未亡人となった淋しさを、綺麗な音の大正琴で癒してもらおう。そんな一年か二年のつもりで席を置き早十五年生です。その内に、パソコン教室にも入れて戴きました。月に四回通い詰めて、慣れ親しんだ校舎と別れるのが寂しいと強く感じたのは、先日入学願書を提出したときから。急にこの学校とは後数ヶ月でお別れかと感じて校舎が愛おしく思え、授業が終わって掃除をするにも感謝を込めて今迄よりも気を入れて行っています。

ですが、聞くところによりますと自分たちは一度も掃除をしたことは無いと、自慢とも取れることを言われる人もあるそうで大変残念なことだと思えます。学ぶために使わせていただいた教室を、清掃するのは当たり前でしょう。

移転にともなつて事務局は大変多忙にされています。物品を運ぶ物と整理する物もありましよう。学生達の通学に使う自動車や単車等の駐車場の件では三原市との交渉もあり苦労されておられるらしい。今までのように、駐輪場も駐車場もないのでこれが一番苦の種でしょう。コースによっては、陶芸は重い物を頑張つて持参しなくてはならず、車は欠かせないので駐車料金は少額でと望みます。

授業料よりも、駐車場の料金が心配です。

続けて老人大学に通学するのが、無理な事態にもなりかねません。学生数の減少している現在、授業料で運営がされているのですから多数の方に入学してもらいたいと思います。

年若い老人が生き甲斐、楽しみ私の私としては困る事になる。認知症予防のためにも老人は、三原市民の大切な場所です。

## 仲間づくり

パソコン院⑭ 元永眞子

人生を輝かせるのに大切なものは仲間作り、かけがえのない出会いを求める学びの場所、それが老人大学です。

老人に入学して早くも九年の月日が流れました。老人大学の一番の特徴は、充実した大切な自主活動、趣味を楽しむサークルを趣味の世界を楽しむものも自分達流、そんなスタイルを貫いてメンバー間の結びつきが強く月二回の学習も仲間同士と教え合い、学びあつていきます。

新年度から学習場所がかわりますが、仲間とは何時までも一緒に学び合いたいものです。ボケないためにもね。

## 体験講座に参加して

パソコン院⑭ 中村 好子

筆ペン書道、吹矢の講座を申し込みしたところ、幸いにも両講座を体験させて頂きました。

毛筆は少し経験あるが筆ペンは苦手なので丁度良い機会と思いい、また吹矢は全く未知の世界なので興味を覚えました。

両講座とも理解出来るようにご丁寧なご指導で受講の方々も真剣な表情眼差しでした。どちらも「静」の世界です。その中に奥深さを感じました。また旧知の友との出会いもあり本当に素晴らしい体験をさせて頂きました。感謝です。曜日と時間が合えば是非是非受講したいと思えます。



実用書道入門体験講座



スポーツ吹矢体験講座

## 事務局だより

新事務局員 赤羽 邦子



お世話になりました。一年が過ぎました。

「学ぶ」ことの素晴らしさや「人とつながる」ことの楽しさを、私自身が日々学ばせていただいています。事務局員として、よりよい環境づくりに精一杯努めたいと思えます。どうぞ、よろしく願いいたします。

鳥取見聞録

パソコン院③ 桶東愛生

私は温泉が大好きです。三年前に、長男が鳥取市へ単身赴任したので、私の温泉巡りは鳥取県へ集中するようになりました。現在の鳥取県の人口は五十万人であり、日本一人口の少ない県です。

鳥取県の平井知事には「スタバはないが日本一のスタバはある」「県の人口は減っているが、妖怪は増えている」「鳥取県にはカネは無いけど、カニはある」「鳥取県には「新幹線」は無いけど「新甘泉(梨)はある」等のダジャレ名言があります。鳥取県を代表する山は「大山(ダイセン)」が有名です。



鳥取県のシンボル「大山」

鳥取県には、蒜山(ヒルゼン)、那岐山(ナギセン)、氷ノ山(ヒヨウノセン)、扇ノ山(オウギノセン)、という千メートルを越す山々に囲まれております。これらの鳥取県を取り囲む山の

読み方は「ヤマ」ではなく「ゼン」又は「ゼン」と読みます。全国に七十の「セン」又は「ゼン」という読み方の山がありすが、これらの殆どが鳥取県とその周辺に集中しています。



五つの島がある日本一の池「湖山池」

鳥取県では、他の地域では「湖」と称されている規模の内水面も、「池」と称しています。

周囲十八キロメートルの「湖山池」、周囲十二キロメートルの「東郷池」、周囲三・四キロメートル多鯰ヶ池、周囲三キロメートルの水尻池、周囲三キロメートルの日光池があります。

日光池は冬は池となり、夏は水田となるという奇妙な池です。周囲十二キロメートルの東郷池は訪れる観光客の視点を迎合して、「東郷湖」と称することもあります。それより大きい湖山池は周囲十八キロメートルもあり、池の中には五つの島まであります。誰が見ても湖ですが、鳥取県人は、「日本一大きい池」と自慢しています。

鳥取県の三朝温泉は、世界的なラジウム泉として知られた放射能泉です。

世界保健機関が示す放射能の安全基準はリッターあたり百ベクレルのところ、三朝温泉の温泉は九千三百六十一ベクレルという最高記録がある放射能泉です。危険な温泉ではないかと思われま。危険な温泉であれば、三朝温泉はとつくの昔に廃墟になっているはず。ところが、現在でも、三朝温泉は年間約四十万人が入湯する温泉観光地として栄えています。

私の健康法

パソコン院⑭ 力石素美

加齢と共に、毎年衰えて行く自分をいかにその衰えを防ぐ事が出来るか考えて日々過ごしている。一例を紹介すると

① 毎朝冬は六時三十分、夏は五時から愛犬と約一時間散歩をする事である。

② 人家が無く平らな道路は数を一・二・三と数えながら前向きに二十歩、後ろ向きに二十歩交互に歩く。歩数は何歩でも気分に合わせている。

③ 朝日を浴び深呼吸・山・海・花・色々景色の変化を楽しむ。みながら速度を変えて歩く。

④ 神社の石段を数えながら往復する。

散歩が終わるとコーヒータイム仲間達と家庭菜園やテレビ番組等たわいない話をして笑い明日も元気で会おうねと解散する。

声を出す事は良い事なので公民館で毎週一回DVDを先生にしてカラオケを毎月課題曲を多数決で決め歌っている。

⑤ 始めた頃は『明日は今日より上手くなる』と『あすなる会』と命名したが最近『ヘタでも良い、楽しく笑って元気に歌おう』をモットーにしている。

歳の離れた友達が七十歳の頃毎年何か新しい事に挑戦されていたので、私も見習おうと色々良いと思う事は広く浅く行っているが、これからの人生は健康で楽しく過ごせたら良いなと思う今日この頃である。

孫

パソコン院⑭ 舟津美智子

下の孫が幼稚園の年少だったと思う。デパートで水族館のコーナーが出来ていて、両側面に色々な魚を見ながら進んで行く。先の方にプールが置いてあって、係の人が「みんな！この中にいるのは、何かなあ」子供達は恐る恐る中を覗いていました。

私の元気な孫は、サーと走って行って、プールの中の物を掴みあげたところ、なんと大きなナマコでした。私は慌てた事を覚えています。今その子は一の可愛い女の子になりました。私もまだまだ孫の送り迎えがあり、体に気をつけて、すぐに忘れていく「パソコン！」老犬に行くことに意義があると思つて頑張っています。

私の十二月

院パソコン⑭ 保科静香

毎年十二月になると、この月の計画表作りから始まる。そして、五日頃から毎日少しずつ二週間かけて大掃除を始める。

下駄箱、本棚、食器棚、台所シンク周り、収納棚、換気扇、レンジ、冷蔵庫、押し入れ、倉庫の中を全部出し断捨離しながら掃除する。箆も引き出しを全部出し本体を移動し壁と天井も。網戸に(張替も)窓拭き、お風呂場そして庭掃除と色々あるが、私にはこだわり(?)があつてとにかく一年に一度十二月には家中くまなく掃除がしたい。主人は当てにせずマイペースで終わると、とつても気分爽快!! 大掃除がすみクリスマスケーキを作り、お世話になつて下さる方々に持つていくのが楽しみの一つです。そして、三日間に分けておせちを(極めてシンプルではあります)作り、大晦日の夜はのんびりテレビ観戦し、正月を迎える。このこだわり大掃除、無理をして頑張っているとは思っていないが、いつまでやれるだろうか...そんなことを思いつつ私の十二月は終わり令和二年を迎えました。

編集後記



大学祭と同時進行であったので、院⑭クラス八人のフルメンバーで編集にあたりました。次回は再編集されたパソコン院Aに担当していただきます。